**復活ローラーコースター　 2016 03 27**

**ルカ 24章1-12節　 安達均**

主の復活の喜びが、礼拝堂に集った一人一人の心の中に、また今日は教会にこれなくても、説教を後に読む人々の心の中に、豊かに湧きあがりますように！

ナッツベリーファームにチャペルがあるのをご存知だろうか？今は、そのチャペルでは、毎週礼拝は行なわれていない。しかし、60年前に、あのチャペルで毎週、礼拝をはじめたルーテル開拓伝道教会がある。

数年後には、ブエナパーク市内に、教会の土地を購入し、礼拝堂を立て、ナッツベリーファーム内のチャペルを使用しなくなったグッドシェパードルーテル教会という教会。　しかし、3月13日の日曜日の朝は、グッドシェパードルーテル教会が伝道開始60周年を記念して、現在のパスターのマイクシュナイダー牧師と、私のボスである、パシフィカ教区、ビショップマリーフィンクが、それぞれ司式と説教を担当して、ナッツベリーファーム内にあるチャペルを使い、礼拝が守られた。

思えば、ナッツベリーファームのような遊園地で起こっていることは、キリスト教会につながった信仰生活を、寓話のように表現している面がある。洗礼を受けるときに、あるいは、礼拝でも、教会によっては、時々司祭が、洗礼盤から聖水を信徒にかけたりするが、教会でも遊園地でも、どちらも水がかかって濡れるということがおこる。

また教会につながって洗礼を受け信仰生活を送るものが、私の生活どうなってしまうのかと思うような、危機感や、もうだめだという絶望感に襲われて、信仰生活から離れてしまいたくなることすらあるように、ローラーコースターに乗ってから、「あーこんな恐怖感を覚えるのなら、乗らなければよかった。」と思ってしまうこともある。

今日イースターをお祝いするにあたって、初代キリスト教徒たちの状況を考えたい。1週間前は、エルサレム市民は、新進気鋭のイエスという宗教指導者をユダヤ教の聖地エルサレムへ大歓迎した。イエスに従っていた、12人の弟子たちや、マリアやマルタたちも、「いいぞ」と思っていた事だろう。

イスラエルがほとんどローマ帝国にのっとられてしまっていたなかで、イエスが状況を覆してくれるのではないかという、民衆の期待も得ていた。しかし、イエスを殺そうとたくらんだ、ユダヤの指導者もいた。

そのような複雑な背景があるなかで、民衆に大歓迎されたイエスだったが、馬に乗った騎士のような姿で登場するのではなく、弱々しいロバにのってあらわれた。結局、いとも簡単に、弟子の一人にはうらぎられ、身柄を拘束したユダヤの指導者たちは、自分を神としているイエスは死罪だとして、ローマの総督に渡す。

ローマ側の総督であったピラトは、イエスが死罪に相当するような罪をおかしていないと訴えるが、こんどは、民衆がだまっていない。　イエスを死刑にしろ、さけびつづけた。　ローマ総督として、イエスに十字架刑を執行せざるをえなかった。

弟子たちや、イエスの付き人たちは、なにも防ぐことはできず、だまって、その死刑執行をみているしかなかった。金曜日に十字架刑は執行され、安息日のはじまる金曜夕刻と土曜日は、どんな気持ちで、過ごしたのだろうか。　３年間、自分はイエスに従ってきたが、この三年はなんだったのだろうか？　われわれの救い主としたイエスは死んだ。　もう終わりだと、絶望感にひたったことだろう。

安息日の終わった最初の朝、日曜朝、マリアたちは、イエスの遺体に香油を塗るべく墓に行く。　ところが、遺体はもうなかった。天使が顕われて、イエスが復活されたことを告げ、また、イエスがガリラヤで語った言葉を思い出すように告げる。イエスが自ら、「罪人の手にわたされ、十字架刑にかかって死に、三日後に復活することになっている」と語っていたことを。

イエスは生きておられた。　そしてイエスの語られた言葉も生きていた。　最初は、イエスの復活は信じられなかったが、イエスの付き人たち、また弟子たちの絶望が、希望へと変わっていった。

イエスは生きており、イエスの語った言葉は生きている。多くの言葉を思い出せる。イエスは、わたしたちに互いに愛し合うように語っておられた。　また、私はぶどうの木、あなたがたは、ぶどうの枝である。　枝が木につながっているように、わたしたちも、イエスの体につながっているように。

イエスに従うなかで、初代教会の弟子たちは、イエスの死により絶望感にひたった。しかし、絶望では終わらなかった。復活があったから。今日イエスがこの世に生まれてから2000年以上たった今も、イエスが語っていた言葉がいき続けていることを思い出させる。またイエスの体が、教会という形で、生き続けていることを思い出させる。

聖書は、イエスの言葉がたくさん書かれたマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書が、中心にあり、その前に、紀元前に書かれ39の書からなる旧約聖書がある。　また、四つの福音書の後には、23の、イエスの弟子・使徒たちの書いた、使徒書なるものが編集されている。

その最後は、ヨハネの黙示録でしめくくられている。　黙示録となると、よく世の終わりを顕しているといわれたりする。　私の神学校時代にルーサーセミナリーで教鞭ととっていた、神学者であり牧師のクレイグコスター教授は、「黙示録：すべての終わり」と題する本を書いた。しかし、これは、世の小説家や映画プロデュサーたちが、あまりにも、世の終わりを暗示しているとしてしまっていることへの挑戦として、この本を書いたように思える。

クレイグコスター教授は、彼の本の結論として、こんな絵を描いている。　ぐるぐる、めまぐるしく変化するなかでも、まっさかさまになったと思えば、またもとにもどされる。　そんな、イエスとつながる、神のひぞうぶつ、人類。　それは、ローラーコースターのようでもある。皆さんのお一人お一人の人生を思い、この絵を見てどう思われるだろうか？　このイエスの木である復活ルーテル教会につながる日本語部の群れも、今年は5月以降は、日本語の礼拝は月２回として、あとの2回、3回は、英語の礼拝に参加するという形で、信仰生活を守っていく。　そのかわり日本語のバイブルスタディの機会は逆に増やす予定。　そのような、ローラーコースターとも思われる、信仰生活になるかもしれない。　しかし、大切なことは、復活コスターから降りずにいることが大切。　復活の喜びを、いつも味わいながら。

